
オタクの彼女っ！

パンダ

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

オタクの彼女っ！

【Nコード】

N9853Q

【作者名】

パンダ

【あらすじ】

いがしゅんすけ
伊賀俊介。23歳でパン屋で働く年齢。彼女いない歴を持つ彼は――世間で言うオタクっ！前髪は顔の半分もの長さ、体付きは細身、引きこもりに近く声は小さい彼は6歳下で近所の居酒屋で働く看板娘の少女に恋をした・・・！他とは一味違った平凡どたばたコメディ風の究極の恋愛が今始まる！！

序章 「可愛い彼女っ！」

恋をした。

一目ぼれだった。

最近できた、個人営業の居酒屋さん。

元々人通りが少なかったからかお客さんもあまり見かけず、旦那さんと奥さん、そしてアルバイトで決して可愛いとは言えない――、大太りの女性でひっそりと経営されていた店。

けれど突然、その店に客が集まり始めるようになった。

いつ頃からだったかは憶えていない。

けれど、本当に突然の事だったのは憶えている。

店に活気づき、中から客の笑い声が聞こえるようになった。

それと同時に店の味も広がり、店が活気づいた原因とも思える話の内容が耳に入った。

――若くて可愛い新しいアルバイトの子が入った、と……。

よくある話で、こういう話は居酒屋では結構重視される。

仕事で疲れたおじさんも、可愛いくて若い女の子が笑顔で働くのを見て和みたいという下心の表れから来る話で、たいてい酒を飲む場所では女の子は重視されてこんな話は必ずあるが――、噂通りの辺

りはなかった。

僕は二次元の女の子が好きだ。

可愛いし、なにより優しい。

声も高く、癒される。

気が付いたら僕は、今の世間で言うオタクと呼ばれる存在になっていたが・・・それでも構わなかった。

僕の唯一の癒しを否定される憶えもなかったし、三次元の女の子より僕には二次元の女の子の方が魅力的に見えたからだ。

オタクと呼ばれる僕も一応成人していて、時間があればお酒を飲む。

家に酒が無ければ出かけて店で飲んだりする。

二次元の女の子を愛しすぎたせいか、三次元の女の子になかなか接することが出来ず、気が付けば年齢〓彼女いない歴になっていた僕にとっては唯一女の子と接点を持てる場所でもあったが――・・・

やはり、三次元の女の子に惹かれることはなかった。

現実の女の子は極端だ。

店では笑顔を振りまき甘い笑顔を見せて夢を見させてくれるが――、いざ仕事が終わって彼女たちの日常に戻ればワケが違う。

彼女たちは自分の日常の中で友達に客の愚痴や気に食わない人間の

汚い悪口を平然と吐く。

そんな行動をしている彼女たち自身が何よりも汚いものとも気付かず――。

綺麗なものを求めているわけではないが、こんな姿を見るとどうしても三次元の女の子を直視できない。

あれだ、理想を崩されるのが怖いんだ。

だから僕は、三次元の女の子を愛することが出来ない。

そう信じて疑わなかったし、これからもそれは変わらないと思っていた。

僕はきつと、このまま人生を終えるものと思っていた。

・・・そんな僕に、転機が訪れた。

仕事が終わりに、疲れた体を引きずりながら家へと足を運んでいた僕の目に飛び込んできた、最近噂の居酒屋さん。

そういえば、噂ではここの居酒屋さんは酒の種類が豊富だと聞いたことがある。

最近、忙しくて酒を飲んでいる暇もなかった。

家に帰っては寝て、起きて仕事に行く……。

毎日その繰り返しで、明日は月曜日だが久々に取れた休日でも予定も入っていなかったはず。

少し考えていたが、結局は“中に入る”という選択にした。

ここは個人営業の居酒屋で、この店の旦那さんとアルバイトの子の二人で営業していたはずだから、そんなに大勢の女の子はいないはず。

いたとしても、ここは男のスタッフが多かった気がする。

女の子の一人や二人くらい大丈夫だろうという決断に至ったからだ。

そうして少しためらった後に、僕は木製のスライド式の扉に手を掛けて、軽くスライドさせた。

店の中の温かい空気と料理の香りが僕を迎えるとともに――

『いらっしゃいませ！』

可愛らしくよく響く女の子の声が僕を迎え、僕が顔を上げるところこのバイト服を着た子が笑顔で僕を出迎えていた。

そして彼女を見た瞬間、僕の体を電流が駆け抜けた。

150?あるかないかくらいの身長に、くりつとした黒曜石のような愛らしく大きな瞳、遠目からみても分るさらさらの髪は一つに結ばれ、唇は桜色にぷるんと潤っている。

今まで見て来た女の子の中でダントツな彼女に僕はただ見入っていて、この瞬間、心に一つの確信が広がった。

・・・これが恋という感情なのか、と・・・。

この胸を焦がすほどの、息も出来ないくらいの甘く苦しみを憶える痛み・・・。

これを恋と呼ばずして何と呼ぶのだろう？

目の前の愛らしい少女を前に早く脈を打つこの心臓が意味する言葉はそれ以外ないと、僕は理解したと同時に酷く戸惑った。

長年三次元の女の子と接していない分、そう彼女に接したらいいか
分らない・・・。

動かない僕に気を悪くするわけでもなく、彼女は愛らしい笑顔が浮かべたまま首を傾げている。

熱を集める僕の顔を、伸ばし続けて鼻辺りまである長い前髪が隠すのを見て、心から彼女に自分の顔色に気付かれていないことに安堵する僕の心情なんて知らない彼女に、僕はただ安堵の息を吐いた。

序章 「可愛い彼女っ！」（後書き）

初めまして、パンダです☆

思いつきで始めたものでいつ消えるか分かりませんが、精一杯がんばりますのでよろしくおねがいします！！

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n9853q/>

オタクの彼女っ！

2011年10月8日18時56分発行